

水資源保全の取組み

方針・考え方

当社グループでは、工業用水、地下水、上水道、海水を水資源として使用しています。各製造拠点ともプロセス内の循環使用など水資源の効率的な使用に努めており、環境への排出時には各地域の排出規制を順守するよう管理しています。

排水の水質確保の取組み

東亜合成グループでは、日本国内において、法令で定められた基準に加え、より厳しい排水に関する自主基準を設定し、水質保全に取り組んでいます。

排水が環境へ与える影響を低減するため、排水負荷の大きい工場では、活性汚泥処理法などの環境技術を用いた処理設備を設置し、排水を適切に管理しています。

なお、2025年度は、排水の水質に関する法令違反がなかったことを確認しています。



名古屋工場に新設した排水処理設備

水ストレス評価

生産拠点の流域における水の供給不安や洪水の発生は、事業活動に大きく影響を及ぼすと予想されるため拠点ごとの水リスクを把握し、事業継続に向けた適切な対策の実施やBCP（事業継続計画）の制定などを行っています。東亜合成グループは、海外を含む全生産拠点と研究拠点を対象に、世界自然研究所（WRI）が開発・発表した水リスク評価ツール「Aqueduct Water Risk Atlas」の「Aqueduct 4.0」を用いて、水ストレスの評価を行いました。評価の結果、現時点で非製造拠点である中国（上海）、インド（アーメダバード）の2拠点の水ストレスレベルが「高」に該当することがわかりました。国内を含むその他の拠点では、水ストレスが高い地域はなく、水ストレスに対応する施設や資産、それに伴う生産や収益はありません。定期的な評価を実施し水リスクの把握に努めるとともに、引き続きストレスレベルにかかわらず水資源の有効活用と適切な使用に努めます。

水ストレス評価結果

表中の数字は拠点数

地域	国	高	高～中	中	中～低	低	合計
アジア	日本	0	0	9	8	0	17
	中国	1	0	1	0	1	3
	台湾	0	0	0	1	0	1
	タイ	0	1	0	0	0	1
	シンガポール	0	0	0	0	1	1
	インド	1	0	0	0	0	1
米州	アメリカ	0	0	1	0	0	1
合計		2	1	11	9	2	25

TOPICS

河川講演会の開催

徳島工場における講演会では、徳島工場が利用する吉野川水系の水利用の歴史や、近年の河川行政の動向について解説がありました。特に、気候変動による豪雨などの水災害が増加する中で、地域全体で取り組む「流域治水」の重要性が強調されました。また、企業においては、浸水対策や事業継続計画（BCP）の策定が必要であり、被害軽減や早期復旧に向けた具体的な取組みが求められることが示されました。



講演会の様子